

「教育の質の確保」・「望ましい教育環境の中での教育」

1 教育の質の確保

- 学習体験や生活体験を通して多くの子どもたちと関わり、多様なものの見方や考え方に触れ、自分自身の見方や考え方を持つことができること
- 体育や音楽の授業、運動会などの学校行事で集団教育活動ができること
- 先生から直接的に専門の教科の指導を受けられること

2 望ましい教育環境の中での教育

前提：一定規模の集団により学校生活を送ること

- 社会性や協調性を養い、コミュニケーション能力を身に付けられるよう、多様な人間関係を築くことができること
- グループ学習や習熟度別学習、理科など専科教員による学習指導といった多様な学習・指導形態を採れること
- 相互に刺激し合い、一人ひとりの学習意欲や成長を引き出せるよう、切磋琢磨する機会を多く見込めること

⇒【適正な児童生徒数を確保することの重要性】

子どもたちは集団の中で多くの人との関わりを通して、多様なものの見方や考え方に触れることができる。その中で、相手を思いやり尊重しあう気持ち、協調性や社会性を身に付け、心身ともにたくましく成長するものである。

そのため、子どもたちが一定規模の児童生徒数の中で学校生活を送ることは、地域の一員として暮らし、また、社会に出て働き生活していく上で大切な準備活動だと考える。